

スタッフ紹介

Interview

～「きどっち」の巻～

「氣道のスタッフ」をもっと知りた〜い☆☆コーナーです☆☆

インタビュアー：N.F.



NewFace「きどっち」こと、
木戸洋志さんです。
その風貌からは計り知れない
驚きの?過去が明かされる、
とっておきインタビュー☆
笑いたっぷりの
関西イントネーションで
お読み下さい。

● ご出身は?

福井県の小浜市です。海がすごく近くて、行ってない日はないんじゃないか…っていうくらい、毎日海行ってました。泳ぐというより浸かりに…(笑)。夜ひとりで行ったり…。山でみんなで遊んだりとかもしてました。

その後、大阪に出てちょっと学生したんですけど…うーん…みたいな感じがあって。…いきなり劇団に入ったんです(笑)。大阪にある「維新派」っていう、野外劇団です。

● いきなり劇団に?

見に行った時に「ああ——」って、思ってしまったんですね～。そこで28歳まで役者やってたんです。はい。建て込みから舞台美術も作って、衣装も作って、自分たちも、作品として出る・・みたいな劇団で。例えば、奈良の山奥のグラウンドに舞台を作って、そこで50人くらいの白塗りした役者がいろんな動きをする。台詞っていうよりも、大阪弁の掛け合い。音と音のかけ合い。それでリズムをとっていく、みたいな感じです。…はい、白塗りしてました。

劇場の外には屋台村も作るんです。いろんなご飯やさんとかの人たちが、屋台を作る。そこでサーカスとかもしますし、バンドもしますし、歌も歌いますし…。いろんなことが繰り広げられているんです。そこで夜中の2時～3時まで飲んでる人たちがいる。公演もやってるけど、外はそういう場になってる。その頃の映像?…YouTubeにありますね。

出ます出ます。良かったら見て下さい(笑)。

● 整骨院で働かれるようになったきっかけは?

劇団にどっぷり浸かってたんですけど…ある瞬間

「ぱっ」と、切れた時があったんですね。

「自分、これから先、何しよ…」って思ってしまったんです。

その頃整骨院の先生と仲良くなって、いろいろ教えてもらうようになって…じゃあ体のことやっていこうか、と、思って、こっちの世界に…。はい。

でも、その当時は、指圧をやっていて…途中から「何やってるんやろな…」って。目的がわからなくなってしまっただけで、患者さんのためにやってるって、口だけで言ってるよね、みたいな…。

● 真面目なんですわ。

どうでしょうか…内向的…なんです。自分で考えて考えてどんづまりで先に進めなかったんです。もう、どないしよー、どないしよー…って。

そんな時にね、氣道に、出会ったんです。

「これだ」って思ったのは、ゆうちゃん(芦屋スタッフの中野裕子さん)なんです。ゆうちゃんの愉氣を初めて受けた時に、「何なんだ〜?!」って思ったんです。僕、あんまり人に体さわられるの好きじゃなかったんですけど…ゆうちゃんの愉氣受けて、感動したっていうか、もう、ビックリして。心地良いうっていうか…これは何なんだ〜?って。

それで、あるきっかけがあって、「よし、今年は氣道で勉強しよう!」と思ったんです。道場開きの時に神社まで行って「今年は勉強できますように」ってお願いして。で、その年の4月くらいには先生に「弟子にして下さい」って言っていましたね(笑)。

講座後に先生とお話する時間があって…、みんなの前で「弟子にして下さい!」って言ったんです。「横浜行こうと思ってます!」って。整体も習っていないし、もちろん氣道の学校も受けていない(笑)。でも、とりあえず横浜行ってみたらいいんじゃないか?って、思ったんですよね～。横浜道場も知らない、東京道場も知らなかったんですけどね。

● 思い切りがいいんですわ。

ざざざ〜って、行ってしまいうんですわ(笑)。可笑しいですよ。嫁はねえ「行った方がいいんじゃない」って、まあ簡単に言っていましたけどね。

※次の頁へつづく

そしてめでたく一昨年（2014年）7月に氣道のスタッフとなり、年末には横浜へ…。

● 将棋で長谷川先生を負かす腕だと聞きました。

（笑）あれは先生が勝たしてくれてるだけです。イヤー…もう全然です。将棋してる時の先生見るのが好きなんです。いろんなこと考えてるんやろな～って。先のことも、周りのことも、全然違うことも考えてるんやろなって…。そんな姿見てるの好きですね。

● 長谷川先生について

人間くさいところが好きなんでしょうね。なんか、濃い～何かがあるんでしょうね。何て言ったらいいんでしょう。塊みたいなヤツですよ。わかります？（こちらが両手で丸を作って動かしてみると）あ、それぞれ、それが好きなんです。そういう人ってあんまりいないんですよ。生きてる人で出逢えたっていうのは、大きいですね。

「会ったかな～あかん人」って、いるじゃないですか。会うべくして会う人、ってね。

● そして今は学びの最中？

昨年末の氣道の学校をきっかけに「結局自分なんだ」って、気づいたんです。ここに来た意味がわかった、って。

今年から「自分で」やっていくんでしょうね。今までは「絶対僕は大丈夫な人やし、この先も大丈夫だ」って思ってたからね。ははは（笑）

だからたぶん、今年、すごい面白いと思います。いろんなことがあるやろな～。で、氣道の学校受けてまた変わって。3年後ぐらいにはね～～すっごく面白くなってると思うんですよ、僕の人生。

● 好きなものは

野口晴哉の「偶感集」を初めて読んだ時、感動したのを覚えています。「日本人でこんな考え方ができる人がいるんや～」「へえ～」って。

武満徹も好きです。音楽もエッセイも。武満徹と野口先生っていうのは…好きですね。

近藤等則さんもすごい好き。トランペット聴いているとね…「はあ～」ってなります。それは長谷川先生に感じているものと一緒のような感じがします。さっき言った「塊」みたいなんでしょうね。人間くさいんでしょうね。

● 奥様も？

嫁も人間くさい、土臭い人です。見た目はわからないですけど…（笑）すごいなって。どこが？というより…嫁「が」好きなんでしょうね。嫁も劇団で、同期やったんです。

もう、ねえ…振り回されてますよ、僕。

お互い振り回し合ってるような感じ？（笑）。お互いが渦。たぶん二人とも好きなんでしょうね、そういうのが。

大阪の劇団時代に、何かに長けてる人たち…ご飯でもそうやし、踊りとか、音楽でもそうやし…作り手がいっぱいいました。…そういう人達とすごく仲良かった。面白かったですね。メチャクチャでしたけどね、みんな。濃い時代やったんやなあって思いますね。氣道の周りって「凜」としては人が多いじゃないですか。ぐでんぐでんなあの頃と全然違う。僕、たぶんね、大阪時代のもん、ってまだ持ってるね…（笑笑）…それがこれからどうなっていくか、っていうのが楽しみなんです（笑）。

● お仕事されながら氣道で学んでいるんですね。

特養（特別養護老人ホーム）で機能訓練員として働いています。じいちゃん、ばあちゃんとしゃべるのが楽しくて…。認知症の人ばかりですけどね。話聴いてて、もう…戦争時代の話なんて、すごいんですよ。生の声を聴くっていうのはね、すごい面白いです。

● 会員の皆様へ。

皆様に、よりよく援助できるようになります。よろしく願います。

それと、氣道の学校是非受けて下さい!!（笑）すごい楽しい。皆に勧めたい!

● きどっちと、たくさんお話したくなります～

そうですね。僕も皆さんとお話したいです!。…すごい人見知りですけどね（笑笑）。是非!

「最近仕事場で、周囲の人から、お爺ちゃんみたいねって言われますよ、僕（笑）」という「きどっち」。仙人のような佇まいから、なるほど～、と大笑いしてしまいました。

「内向的」と言いながら、ここぞ、という時のすばらしい行動力! 発せられる力強い言葉の数々。

笑いの絶えない楽しいインタビューでした。ご本人のおっしゃるとおり「これからの楽しみ」な方です～!

~~~~~  
\*ゆうちゃん（中野裕子さん）の整体は、  
芦屋道場（0797-23-1606）で受けることができます。